

## 別記様式

## 会議録（要点筆記）

会 議 名	令和5年度第1回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議
開 催 日 時	令和5年12月14日（木） 14時 00分 ～ 15時 44分
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 コンベンションホール
出 席 者	<p>【出席者】金井 毅 委員、萩原 和 委員、浅井 茅子 委員、清水 元幾 委員、高槻 官汰 委員、高橋 滝治郎 委員、中村 匠 委員、東野 孝 委員、日比 優子 委員、松井 貴子 委員、山田 輝子 委員</p> <p>【欠席者】西脇 栄子 委員</p> <p>【事務局】政策推進部 川瀬部長 政策推進課 松村課長、高木課長補佐、石田主任</p>
議 題	<p>(1) 令和4年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について</p> <p>(2) 令和4年度地方創生推進交付金活用事業について</p>
結 論	<p>(2) 令和4年度地方創生推進交付金活用事業について</p> <p>■健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度により効果を上げていく期待を含め「③地方創生に効果があった」とのものと評価する。</li> </ul> <p>■滋賀ならではの価値のある資源と観光を掛け合わせてつくる「シガリズム」推進プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナス評価の部分をもう少し掘り下げて、事業を振り返ってPDCAサイクルを回していくことで「③地方創生に効果があった」とのものとする。</li> </ul> <p>■小中学校の ICT 教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの導入が完了しただけでも大きな前進であり、今回の評価は「②地方創生に相当程度効果があった」とのものと評価する。</li> </ul>
審 議 経 過	<p>1 開会</p> <p>2 委員および事務局の自己紹介</p> <p>3 座長、副座長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座長に金井委員、副座長に萩原委員を選出</li> </ul> <p>4 第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の概要および有識者会議の目的について（※資料1に基づき事務局から説明）</p> <p>5 協議事項（※資料2・3に基づき、議題について事務局から説明）</p> <p>●委員からの主な意見・提案</p> <p>【全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未達成の部分に関する裏付けを文字化、可視化して、エビデンスを残していくことが大事。</li> <li>・事業を様々な部署と連携して実施していくことが必要。</li> <li>・令和4年度の取組の結果、どの程度 KPI に反映されているのかははっきりさせた方がいい。例えばデータベースレビュー等を活用し、影響が大きいものに力を</li> </ul>

注ぎ、あまり影響が出ないものにお金を使わない等、取捨選択をすべき。

- ・行政が業務を遂行しながら、幅広く事業を実施していくのは難しいと思う。取捨選択し、材料を整理しながら判断するというのが順番的にもいい。
- ・国の補助金を使うということに対して、いかに戦略的に課題解決につなげていくかが重要である。
- ・各所管課が国の補助金をどう生かしてどう使いたいかを考えて予算要求し、財政所管課とも調整して前もって動けると地域課題の解決につながるのではないかと思う。

(1) 令和4年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について【資料2】

■基本目標1：魅力ある雇用を創出し、女性や若者が活躍するまちを創る

【事業承継・創業】

- ・事業継承の支援として、5年ほど前に、取引先の58歳以上の人で、今後10年間で事業をどうするのかというアンケートを行ったところ、60%程度の人が廃業を考えている、もしくは後継者がいないと回答した。アンケートの対象者は中小企業なので、多くは雇用者10人以下である。つまり、その事業者にとっては10年以内に雇用がなくなるということである。そうなると、米原市内には仕事がないので、人は他の市で働き、人口は流出すると思う。
- ・「女性・若者等への起業・創業支援事業」の経営塾は大変人気だと聞いたが、実際のところ参加者45人で、新規採択されたのが2件である。なぜこんなに新規採択が少ないのか考えると、やはり資金面の支援がないからである。
- ・金融機関も創業資金への支援に力を入れているが、米原市からバックアップするような取組はできないか。例えば長浜市が0.8%で保証料を出すということをしている。米原市でも新規事業を行ったら5万円の支援金が出すという取り組みをされていると思うが、5万円は少なすぎると思う。京都では半額出すという事例も聞いている。このままでは雇用の場が、米原市からどんどんなくなってしまおうと思うので、雇用を広げるためにも、考えてもらいたい。
- ・観光資源もいいが、働く場所がなければ、米原市に人は来ないと思うので、そのあたりを検討してほしい。
- ・実は若い人より年配の人の方が新たに起業する人が多い。仕事をリタイアした人が新しい事業を起こすための資金を持っていることがある。視野を広げて、若い人以外も見つ方がい。借金抱えて企業できる人少ない。
- ・創業塾は毎年人気だが、本気で創業したいと考える人が少ないと思う。単に少し金儲けできたらいいなと考えている人がいざ事業計画を立てると、厳しい現実を見ることになる。例えば主婦で、少しだけ商売を始めてみようと思う人がいたとしても、やはりこちら側は冷めてしまう。その人の人生がかかっているので、ぜひ創業してくださいとはいえずらい。

### 【農業】

- ・農業について、米原市の中小農家の支援が非常に大事なことだと思っている。
- ・中山間の中小農家では、老若男女関係なしに大きな役割を果たされていて、非常に素晴らしいことだと思うが、年齢を考えると10年後はどうなっているか心配である。
- ・後継者がいない。外部農家が移転することは考えられない。その状況を踏まえた農業施策を考えなければならないと思う。
- ・米原市にはヤンマーがあるので、様々な取組ができると思う。
- ・京都のレストランに、米原や滋賀の野菜が出されることが多い。京都のミシュランレストランで米原の野菜が使われている例もある。伊吹大根をもっと発信するのがいい。非常に欲しがっているミシュランレストランがある。継続的に儲かる農業をしてほしい。ブランド化できると儲かる可能性がある。

### 【伊吹山】

- ・伊吹山をはじめ、米原市は非常に自然環境が良く、本当にいいところだと思う。
- ・現在伊吹山は非常に厳しい状況になっていて、登山再開の目途は立っていないと聞いている。そのような状況ではあるが、やはり自然の良さをもっと発信して、広域集客につなげることが大事だと思う。
- ・伊吹山のニホンジカによる食害は、非常に厳しい状況になっている。伊吹山の斜面を見ると、10年前と全く違う様相になっている。それをどう再生していくのかは、米原市だけの問題ではない。
- ・自然再生の取り組みを令和5年から徐々に始めてもらっているが、成果を上げてそれをモデルケースとして発信してほしい。

### ■基本目標2：ひとが集い、若者世代が移り住むまちを創る

#### 【シティセールスの推進】

- ・一般的に、オリジナリティを重視するべきだと言われやすいが、実際のところは「言ったもの勝ち」だと思う。どんどん「言ったもの勝ち」をしてほしい。
- ・例えば上丹生の彫刻では仏壇を作ることもあると思うが、仏壇は素晴らしい芸術品である。そのようなことを体験できることは、実はすごいことである。
- ・他にも梅花藻など魅力的なものがあるので、うまくストーリーを作るべき。そのストーリーに人が乗ってくる。
- ・インバウンドによりビジネスが成り立てば、人が来るという循環が生まれるはずである。そうすれば、市内人口、関係人口が増えていく可能性があると思う。
- ・米原市は毎週伊吹山テレビを作り込んでいて、YouTubeにも発信することをコンスタントに行っており、また、若者を応援する特集等、新しい企画も立ち上げている中で、YouTubeの使い方をもう少し工夫するとすれば、米原市ではどんな体験ができるかを、ショート動画でも良いので、YouTubeにコンパクトにまと

めて発信していければいいと思う。若者は最近、ショート動画の方がよく見ていると思う。

- ・今の若者は5分以上のYouTube動画はあまり見ない。TikTokが主流である。
- ・他にもインスタグラムのショートストーリーのように、触りだけを発信するようなものを作ればいいと思う。
- ・若者の発信意欲にうまくつながりそうなのが、「米原メモリアル動画コンテスト」であると思う。ショート動画の部門もあるので、観光に来た人に対して応募してほしいというような周知を行えばいいと思う。

### ■基本目標3：滋賀県一子育てしやすいまちを創る

#### 【子育て支援】

- ・米原市は「県内一子育てしやすいまち」を掲げているが、何を根拠しているのか分からない。米原市の子育て支援課に聞いたところ、結局実施していることは他の自治体と大して変わらないと感じた。子育て支援はどの自治体でも行われている。
- ・若年世帯の女性（独身から就学前の子どもをもつ世帯の女性）が結婚前でも来たいと思う場所であるというのも大事だと思う。
- ・他の市にない良さが米原市にはあり、田舎で暮らしたい若者は多いけど、都会のカルチャーを捨てずに来ることができる場所だと思っている。そのような立地の良さを生かして、米原市に住みながら、京都、名古屋に遊びに行けるというのは、これから子育て世代になる人たちにとって魅力的だと思う。
- ・子育ての部分で米原市の特徴を出すのが非常に難しいと思うので、その前の段階の人たちがいいと感じるような情報発信ができるといいと思う。
- ・米原市は子どもの医療費が無料であり、子どもを見てもらえる場所もあるが、勤務時間が終わってからいける病院がないのは残念。もう少し医療が充実すると助かる。

#### 【学校ICT】

- ・ICTの実装を小中学校で行い、達成したことは素晴らしいと思うが、実装後、どのようなコンテンツとなって展開するのが大事だと思う。
- ・ICTについて、インターネットが普及するとやはりネットリテラシーが心配である。また、子どもは衝動性が強いので、何か書き込んだら残ってしまうデジタルタトゥーも心配である。そのあたりの整備をしていく必要があると思う。
- ・小中学校のICTのシステムの導入は令和4年に済んでいるが、その活用は令和5年にはできていないと思う。オンライン授業が可能な状況なのに使えていない。ぜひ早い段階でできるといい。
- ・タブレット端末は1人1台あるが、結局、そのタブレット端末も学校にあるままなので家での活用がほぼされていない状況である。できるだけ早く、ICTを活

用した授業をしてほしい。特に学校に行きたいけど行けない子は、授業を受けたいけど受けられないという状況にある。

- ・ICT教育に関して、県立高校でICT化を進めようと、タブレット端末を導入した。ネットリテラシーについては高校生段階でも非常に重要で、高校生にとってのリテラシーと、小学生にとってのリテラシーは違うが、適切な段階で適切なことをするのが大事である。
- ・行政だけではできない部分もあり、保護者や企業に協力してもらいながら調整していくのが大事だと思う。
- ・ネットの書き込み等の嫌な事件がどうしても起こってしまうが、使わないと何も生まれない。使わせなければ問題は起こらないが、結局は何も変わらず、児童生徒のためにならないので、ある意味管轄する側は勇気を持ち、ある程度門戸を広げて児童生徒にも保護者にもまず使わせることが大事だと思う。
- ・教師も大変だと思うが、まずやってみるというのが一番良いサイクルの始まりだと思う。ぜひ米原市には頑張ってもらいたい。
- ・大学では現在ChatGPTを学生が使っているが、やはり使えば使うほど成長する。使わせる、やらせることは必要かと思う。

■基本目標4：駅を核として、地域と地域を結ぶ、安心で安全なまちを創る

- ・特になし

(2) 令和4年度地方創生推進交付金活用事業について【資料3】

■健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト

- ・サイクリングイベントについて、女性向けの体験会イベントをしたということだが、実績としては数えられるが、大事なはその内容次第だと思う。質の部分をしっかりとヒアリングすることが重要である。
- ・自転車の活用として、サイクリングイベントがある。一見するといいことだが、どう継続的にサイクリストの増加につながったのかというデータや、地域の活性化につながったかというデータを取らないと、その効果があるのかわからない。
- ・琵琶湖の周りはサイクリストが多い。その起点が新幹線、サイクルステーションもある米原市であり、今後米原市に来る人に対しても琵琶湖だけでなく市内の生活、豊かな山、食べ物などでアピールして、内部に取り込んでほしい。
- ・KPIの設定自体に問題はあるかもしれないが、KPIは達成している。
- ・コンテンツを作ってどうするかが重要で、今後のビジネスに対する期待も含め評価をしていくようにしてほしい。
- ・令和4年度はコロナという特別な事情があり、未達成なことが多い。
- ・県全体のKPIなので、少し評価がしづらい。

■滋賀ならではの価値ある資源と観光を掛け合わせてつくる「シガリズム」推進プロジェクト

- ・米原市だけでなく、日本全国のインバウンドを考えても体験型コンテンツ（滋賀県ならシガリズム等）が流行しているが、無理やり体験型のコンテンツを作っているだけではないかと思う。例えばシガリズムについて、新たに創出された観光コンテンツの件数は67で、KPIは達成しているかもしれないが、それを売らなければ意味はないと思うので、少し論点がずれていると思う。
- ・今はインバウンドも完全に戻っている状態だが、観光コンテンツの販売につなげられているのかが疑問である。
- ・米原市には新幹線があり、自然も豊かだと思うが、もう少し特徴的なものや、他の市にないものを発信していかないと、ただコンテンツを作って並べているだけなので、米原市が魅力的かと聞かれたら、全然そうは思えない。何を売りたいか、どこを強調してどこを伸ばして米原市を知ってもらうかを、観光施策の中で明確にしてもらいたい。
- ・様々なコンテンツがあるが、何が人の感性に刺さるかは実際わからないことが多い。米原市はコンテンツの発信が不足していると思う。しっかり外部に発信すれば、場合によっては来てもらえる。
- ・英語、中国語、スペイン語等外国語でも発信した方がいいと思う。
- ・米原市のSNSの使い方を見ても、やはり発信力が弱いと思う。例えば盛岡市の事例だが、ただ普段どおりにしていたら人が集まった、というのがある。たまたまそこにニューヨーク・タイムズの記者が来て、評価した。古い喫茶店があった、家具がいいとかそばが美味しいとか、街並みがいいとか、それだけの話である。そのことを考えると、米原市も高いポテンシャルを秘めていると思う。
- ・やはり積極的に外部に発信しないと分ってもらえないので、発信してほしい。
- ・米原市に魅力はたくさんある。米原市は琵琶湖を起点として、魚、風景など様々なニーズがあると思うが、どのコンテンツがどう効くのかはわからない。いいと感じるものは積極的に発信してほしい。
- ・米原市はいいまちだと思っている。1時間あれば岐阜、福井等の県外に出ることができ、新幹線を使って様々な場所に行ける便利なおところだと思うので、住み続けたいと考えている。
- ・シガリズム推進プロジェクトの中で、米原ならではの暮らしやなりわいを体験するプログラムを開発することができたとあり、造成した体験プログラム数が26件で、予約件数が3ヶ月で84人というデータがあるが、具体的にどのような体験プログラムが造成されたか分かりづらいので、教えてほしい。
  - ➡米原の特産品の蕎麦づくり体験、上丹生の彫刻ができる体験、青岸寺の写経の体験ができるコンテンツの作成など、「米原ならではの」ものを外に向けてアピールする体験型メニューを造成している。
- ・プラス要素が過大に評価され、マイナス要素が過少に評価されている気がする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次につなげるためにも、マイナス評価についてももう少し掘り下げてほしい。次年度に生かせないと意味がない。</li> <li>・コロナの影響はあるが、取組のポジティブな面とネガティブな面をもう1回洗い出した上で次年度の計画を立てないと、せっかく作ったものが生かされない。</li> </ul> <p>■小中学校のICT教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの運用を少しずつ広げてほしい。ネットリテラシーを広げること、ショートムービーの制作等、市として働きかけができることがとても大切である。</li> <li>・ICTの導入はもう終わったが、問題は次の年がどういう評価になるのかである。来年はもっとICTの運用ができるように、ここから先が重要である。</li> <li>・今の時点ではICTを導入した、取り入れたということしか見えないが、来年度にそのシステムをどのように使って、教職員や生徒の満足度、教育現場のウェルビーイングがどう実現したかを見定めながら評価していくべきである。</li> </ul> <p>6 その他</p> <p>今後のスケジュールについて（※資料4に基づき事務局から説明）</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開      傍聴者： <u>  0人  </u> <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： <span style="float: right;">)</span> <input type="checkbox"/> 非開示
全部記録の有無	会議の全部記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
担当課	政策推進部 政策推進課